

【別紙様式 I】 令和4年度 学校評価報告書

学校名 厚木市立東名中学校

厚木市教育委員会の基本目標	1 自ら学び、鍛え、未来を拓き、夢や可能性に挑み続ける力の育成【挑戦】 2 自他の命や豊かな感性を大切に、多様性を認めながら共に生きていく力の育成【共生】 3 変化する社会に自ら進んで関わり、人々と協働してより良い社会を創る力の育成【創造】	校長名 田所 俊二
---------------	--	-----------

学校教育目標	学校経営の方針
自己を確立し より良い社会をつくらうとする生徒の育成	1) 確かな学力の向上 2) 自他を尊重し、支え合い、認め合う生徒集団の育成 3) 開かれた学校、信頼される学校づくり 4) 教職員の協働体制の充実、組織的な教育活動の展開

今年度の重点目標

●授業規律の確立ときめ細かな指導の実践 ●生きて働く知識・技能の習得、未知の状況に対応できる「資質・能力」の育成、学びを人生や社会に生かそうとする学びに向かう力・人間性の涵養を根幹に据えた教育活動の推進 ●生徒が主体的に学ぶ授業の工夫 ●家庭学習の定着や学習支援による基礎・基本の修得 ●小学校とのより一層の連携と9年間を見通した一貫教育の推進 ●「持続可能な開発目標(SDGs)」を意識した教育活動の推進 ●生徒理解に基づくきめ細やかで組織的な指導体制の構築 ●基本的な生活習慣の確立と全教育活動を通じた人権教育・道徳教育の推進 ●生徒の自治活動の推進と生徒会名誉基調の継承 ●異年齢集団による望ましい縦割り活動を通じたリーダーの育成 ●個にあった指導とインクルーシブ教育の推進 ●生徒一人ひとりが所属感を感じられる学級づくり ●学校運営協議会を核にした開かれた学校の推進と、教育活動に対する地域力の活用 ●保護者との教育目標の共有と協働を通じた信頼関係の確立 ●公民館・支援団体との連携及び地域行事への積極的な参加 ●学校だより・ホームページによる、学校教育活動の積極的な発信 ●地域清掃などを通じたボランティア活動の推進 ●防災・減災や安全・安心な学校づくりのための環境の創出

評価項目・指標等	基本目標との関連	具体的な取組	成果と課題	次年度への具体的な改善策
分かりやすい授業づくりに努め、基礎学力の向上を図る	1	<ul style="list-style-type: none"> 授業規律の確立 数学や英語の授業における少人数指導やT.T指導の実施 昼休みの学習支援 	生徒は落ち着いて授業に臨めており、約8割の生徒が授業が分かりやすいと肯定的な回答している。全国学力学習状況調査は、全国平均と比べて高い結果が続いている。しかし、保護者の3割は子どもが意欲的に学習に臨めていないと感じており、生徒が分かる授業、進んで取り組める授業づくりをしていきたい。	今後も少人数指導による個々への対応、昼休みの補習等を継続していきたい。また、授業規律を確立し、家庭学習へとつながる授業の工夫によって、基礎・基本を定着させていく。
主体的に授業に取り組めるよう指導方法の工夫に努める	1	<ul style="list-style-type: none"> 校内研究による指導方法の工夫・改善 感じて考えたことを表現できる生徒を育成する授業展開 	8割以上の生徒が主体的に授業に取り組んでいると回答しており、学び合いやICTを取り入れた学習など指導方法の工夫が生徒の評価につながっていると考えられる。考えたことをまとめ、表現する力を伸ばすことが今後も課題である。	次年度も、校内研究を通して授業改善に取り組み、ICTの活用と思考・判断・表現の力の育成を図っていく。
家庭学習習慣の確立を図る	1	<ul style="list-style-type: none"> 毎週の課題の徹底 単元テスト、小テストの実施 定期テストへの計画的な取り組み 「学習の手引き」の作成 	毎週の課題や単元テスト、定期テスト前の計画的な学習などは定着してきている。保護者は学校の取り組みに対して、7割が肯定的な回答をしている。しかし、保護者が意欲的に学習に臨んでいるととらえられるような取り組みはまだ十分ではない。今後も生徒への働きかけを継続し、家庭学習の習慣化を促していきたい。	「学習の手引き」の活用を積極的に行い、家庭学習につながる授業の工夫を図る。次年度も毎週の課題を各教科担当が生徒に家庭学習の課題を与える形で進めていく。また、小学校との連携を図り、三者面談などを通して家庭との協働も進めていく。
生徒会活動を中心とした生徒の自治活動の推進	2・3	<ul style="list-style-type: none"> 生徒会本部を中心とした集会活動、委員会活動の推進 	今年度も生徒会本部が中心となって生徒会活動が充実するよう働きかけ、活動に積極的に参加していると感じている生徒は多い。あいさつについても9割の生徒が肯定的な回答をし、東名中の伝統を引き継ごうと意識している。しかし、保護者は以前よりもあいさつが活発でないと感じており、誰にでも気持ちよくあいさつできるよう促していきたい。	今後も生徒の自主的な活動を支援し、本校の長所である生徒会活動を継承していきたい。あいさつについては、生徒の意識の高さを活かし、生徒会全体で活発化に向け取り組んでいく。

自他ともに尊重できる生徒を育成する	2	<ul style="list-style-type: none"> ・道徳や手話などの福祉体験授業 ・生徒会による人権週間の取り組み ・いじめアンケートの実施 ・心のつづやきアンケート(月1回) 	年度初めに各クラスでいじめ防止のスローガンをつくり、年度途中でその取り組みを評価する機会を持った。また、人権に関わる様々な取り組みを計画的に行っているため、生徒の人権意識が高まっていると考えられる。小さなトラブルはあるものの、自分や他人を大切にしていると感じている生徒がほとんどである。	毎月の心のつづやきアンケートは継続して行い、いつでも相談できる体制は維持していく。また、人権に関わる取組を計画的に行うとともに、日常の活動の中で人権意識を高められるよう指導していく。
生徒一人ひとりが所属感を感じられる学級づくりを進める	2・3	<ul style="list-style-type: none"> ・学級の係活動の充実 ・毎日の三行日記 ・QU ・行事を通しての学級集団の育成 	今年度も9割以上の生徒が学級活動に前向きに取り組んでいると回答している。また保護者の8割程度が明るく充実した学校生活を送っていると回答している。三行日記などを活用して、生徒が所属感を持てるよう、一人ひとりの理解に努めることができた。不登校生徒は数名いるが、家庭との連絡を密にとり、個に応じた対応をとっているため、改善傾向が見られた。	今後も生徒理解に努め、所属感を感じられるような学級づくりを進めていく。また、不登校生徒を出さないような環境づくりに努めたい。
きめ細やかで組織的な指導体制・支援体制の構築	2・3	<ul style="list-style-type: none"> ・心のつづやきアンケート(月1回) ・教育相談(学期初め) ・スクールカウンセラー、元気アップアシスタントとの連携 ・ケース会議や巡回相談 	毎月アンケートを行ったり、学期初めに教育相談を行ったりすることによって生徒理解に努め、問題を抱えているときはケース会議を早期にひらき、教職員で連携することができた。また、元気アップアシスタントやスクールカウンセラーによる教育相談が効果的に行われ、他機関との連携もできた。	来年度も、今年度実施してきたことを継続して実施していきたい。
保護者との連携を密にすることによる信頼関係の構築	3	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭訪問 ・三者面談 ・保護者会、学級懇談会 ・学校だよりやHPIによる教育活動の発信 	活動が限られる中で授業参観週間を持ち、多くの保護者に来校していただくことができた。感染症の状況から、保護者会や学級懇談会を持つことが難しく、保護者の方の考えを聞ける機会が十分とは言えなかった。様々な方法を探りながら、保護者との連携を密にできるよう努めていきたい。	授業参観週間を6月と10月に設定し、保護者の方に学校の様子を知っていただく機会を増やしていく。小規模校であることを活かし、保護者会も学年ごとに体育館などの広いスペースを使用して行っていきたい。また、信頼関係を築けるよう、機会があるごとに保護者の声に耳を傾けていく。
保護者・地域の願いに応えられるような教育活動の工夫・改善に努める	3	<ul style="list-style-type: none"> ・学校ホームページの更新 ・学校運営協議会等の関係団体との連絡会 ・PTA活動 	学校ホームページについては、今年度も多くの閲覧があり、学校だより等の発行もあわせて学校の様子を分かりやすく伝えていることに対して保護者から高い評価を得ていた。学校運営協議会では、十分な討議をすることができ、次年度の教育活動につなげることができた。	学校運営協議会の活性化を図れるよう努め、地域人材の活用や、地域に開かれた教育課程の編成を進めていきたい。
安心・安全な学校づくり	3	<ul style="list-style-type: none"> ・避難訓練 ・いじめアンケート、いじめについての学級指導 ・生徒会人権週間 	年3回の避難訓練や、火災や水害についての防災教育を通して、避難の際の心構えや防災、減災について指導し、生徒や教職員の意識が高まった。いじめに関する学級指導や生徒会による人権週間への取り組みにより、いじめの認知件数も減っている。	次年度は地域防災訓練に参加するよう働きかけ、地域における役割を意識させたい。また、次年度も予告なしの避難訓練を行うことで、自主的に避難できる姿勢を育てていきたい。いじめに関しても、学級だけでなく、生徒会全体で取り組み、生徒が自ら考え行動できる力を強くしていきたい。

今年度の学校関係者評価委員会からの意見

自己評価や保護者・生徒アンケートの分析結果から、教育活動や課題について概ね妥当であるとの評価を受けた。コロナの影響で地域行事との結びつきが離れてしまったが、徐々にできるところから回復していくよう助言をいただいた。

今年度の学校経営のまとめ ・ 次年度への改善の方針

今年度も様々な活動が制約を受ける中での学校生活となってしまったが、保護者・地域の方々の様々な形での支援を受けながら、生徒は落ち着いて学校生活を送ることができている。小規模校ならではの縦割り活動も昨年度より増やすことができ、上級生が下級生をリードする姿が見られた。生徒の資質・能力を伸ばすためのICTの活用や指導と評価の研究も進めることができた。来年度も、感染症対策に努めながら、生徒一人ひとりの良さを認め、資質・能力をのばせるよう、教育活動の充実を図っていききたい。また、生徒指導及び教育相談の体制の構築を図り、個々の生徒に対応した教育を進めていきたい。